

N I E 実践の実態調査結果報告
(2 0 0 8 年 7 月)

財団法人 日本新聞教育文化財団

博物館・N I E 委員会

調査内容

(1) 調査対象

2007年度NIE実践校のうちの継続校264校

(2) 調査目的

教師がNIEを実践して感じた実務的な感想・意見を聞く。併せて、NIEの実践前後の子どもの様子、保護者の評価を聞き、今後のNIE活動に役立てる。

(3) 調査方法

郵送法（実践教師が各学級単位で個人記述）

(4) 回答数

	調査対象学校数	回答数
小学校	96	71
中学校	98	70
高等学校	70	52
計	264	193

(5) 調査期間

2008年2月～3月

(6) 調査項目

<実践校制度について>

- 1 NIE実践校以前に新聞活用授業の経験があるかどうか …P.3
- 2 NIEを始めた理由、きっかけ ……P.3
- 3 NIE実践校制度をどのように知ったか ……P.4
- 4 校長、同僚の理解・協力をどのように得たか（自由記述） ……P.5

<NIEの実践について>

- 5 どの教科・領域で新聞を活用したか ……P.5
- 6 新聞を活用する際の工夫 ……P.6
 - 新聞に親しませる（自由記述） ……P.6
 - 新聞で学ぶ（自由記述） ……P.7
 - 新聞を学ぶ（自由記述） ……P.7
 - 新聞づくり（自由記述） ……P.8
- 7 記者派遣（出前授業）や新聞社見学の利用 ……P.8
- 8 利用した場合の子どもたちの反応 ……P.9
- 9 利用しなかった理由 ……P.9
- 10 新聞活用において感じる難しさ ……P.9
- 11 上記について工夫してうまくいった点（自由記述） ……P.10
- 12 新聞提供がなくなっても新聞活用を続けるかどうか ……P.10
- 13 続けない理由 ……P.11

<NIEの効果、評価について>

- 14 NIEの実践を通じた子どもたちの変化 ……P.11
- 15 保護者のNIEに対する評価 ……P.12
- 16 保護者から寄せられた感想（自由記述） ……P.12
- 17 新聞購読に関する問題 ……P.13
- 18 新聞社や新聞財団への要望（自由記述） ……P.13
- 19 新聞販売店への要望（自由記述） ……P.13

調査概要

実践校になる前の新聞活用について、7割が活用していたと答えており、実践校以外でも新聞が活用されていることがわかる。そしてNIEに取り組むようになったのは「実践校になったから」「もともと新聞が好きで使っていた」「同僚に勧められて」などがきっかけとなっていることがわかった。財団の実践校制度を知ったのは「校長先生や同僚、知人の教師から勧められた」で7割以上を占めている。

NIEを実践するうえで欠かせないのは職場の理解であるが、どのように理解を得たかについて聞いたところ、事務作業の分担（購読料の支払い、資料づくりなど）、校内研修や職員会議などで周知するなどがあげられた。

NIEの実践については、社会、国語、総合的な学習の時間、道徳、特別活動などで多く行われているが、算数、外国語、技術・家庭など様々な教科で新聞が活用されている。

新聞活用の際の工夫として校種を問わず、「NIEコーナーなどを作り、自由に新聞を読ませる」「校内に新聞記事を掲示する」など、新聞に慣れ親しむ環境づくりを行っている。「新聞で学ぶ」際には、「スクラップをしたり、感想を書かせ」たり「記事について意見交換」するなどの実践をしている。「新聞を学ぶ」では、「新聞社の人の話を聞く」、「紙面の読み比べ」「他メディアとの比較」などが行われている。「新聞作り」は小学校の9割近くが実施していた。

各地の推進協議会や各新聞社が実施している記者派遣（出前授業）や新聞社見学を利用したのは約5割。小学校が最も多く6割強が利用していた。子どもたちの反応も小学校が最も良く、「新聞や新聞記者に興味をもつようになった」が93.2%、「記者に対する質問がたくさん出た」が50.0%だった。

記者派遣を利用しなかった理由は「年間計画に入れられなかった」（76.5%）が一番多かったが、1割は「そういうサービスがあることを知らなかった」と答えた。

新聞活用の難しさについては、「教材研究のための時間が足りない」「新聞活用のための時間が足りない」「カリキュラムとの調整が難しい」の順に多かった。

実践校終了後の新聞活用については、全体の85%が続けると答えた。続けない理由は「忙しいので手が回らない」は46.4%で、「新聞が確保できない」（35.7%）を上回っている。

NIEの効果については様々であるが、実践を通して子どもたちは特に「新聞に興味・関心を持つようになった」「社会への関心が高まった」「新聞を進んで読むようになった」で大きな変化がみられた。

新聞購読に関しては、76.7%が問題なかったと回答したが、「注文した新聞が届かない」が7.3%、「購読計画が終了しても新聞が配達された」が9.3%だった。

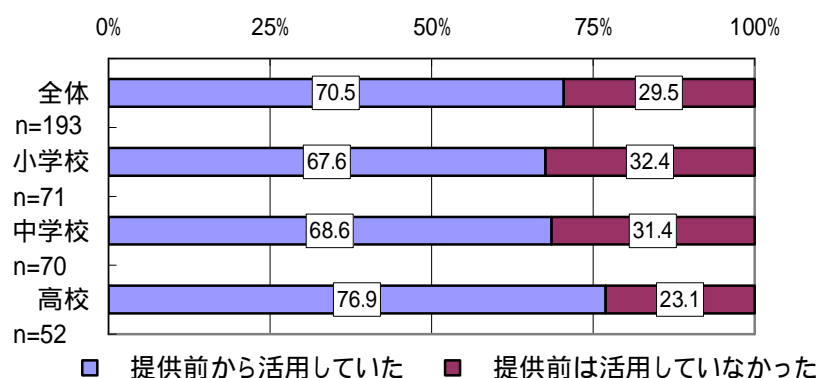
以 上

調査結果

問1 あなたは実践校になる（新聞提供を受ける）前から新聞を授業で活用していましたか？

新聞活用の経験についてたずねたところ、全体の70.5%が実践校になる前から活用していると答えた。小学校実践校の67.6%、中学校実践校の68.6%、高校実践校の76.9%が、実践校になる前から新聞を活用していたことがわかる。

実践校になる前の新聞活用

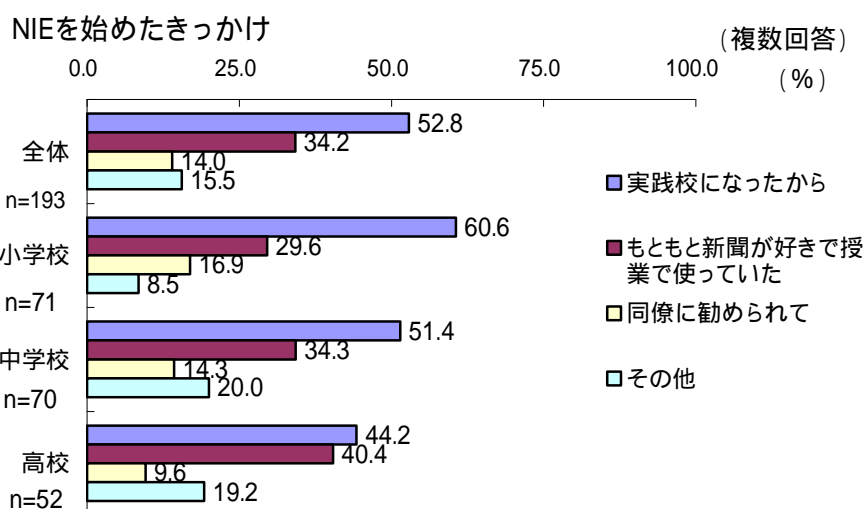


問2 NIEを始めた理由、きっかけについて、あてはまるものすべてに おつけください

実践校になったから	もともと新聞が好きで授業で使っていた
同僚に勧められて	その他

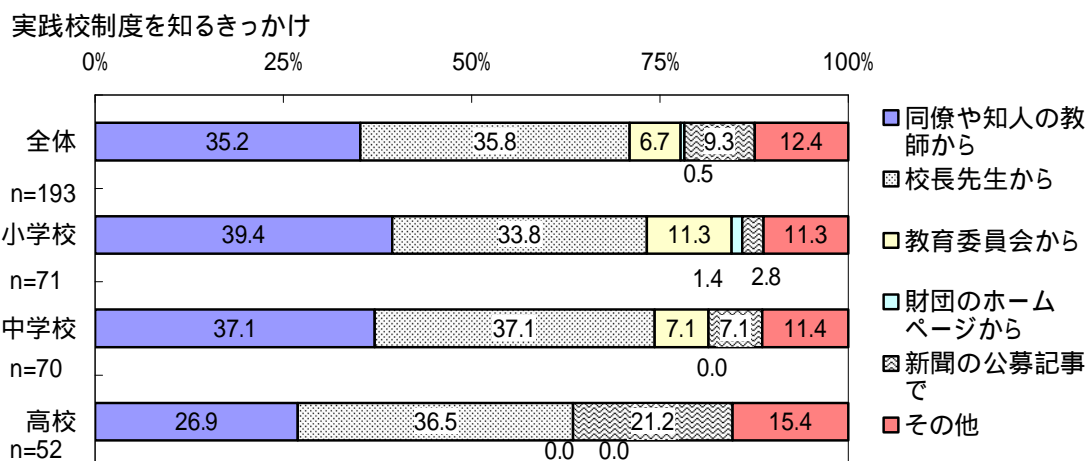
NIEを始めたきっかけについては、「実践校になったから」が最も多く（52.8%）、「もともと新聞が好きで授業で使っていた」（34.2%）、「同僚に勧められて」（14.0%）と続いた。「実践校になったから」という理由がもっとも多いのは小学校で（60.6%）、「もともと新聞が好きで使っていた」のは高校が多かった（40.4%）。

「その他」の理由で多かったのは、校長（管理職）のすすめがあったから、教育委員会からの誘いがあったから、全国大会や実践校の取り組みの記事をみたから などがあつた。



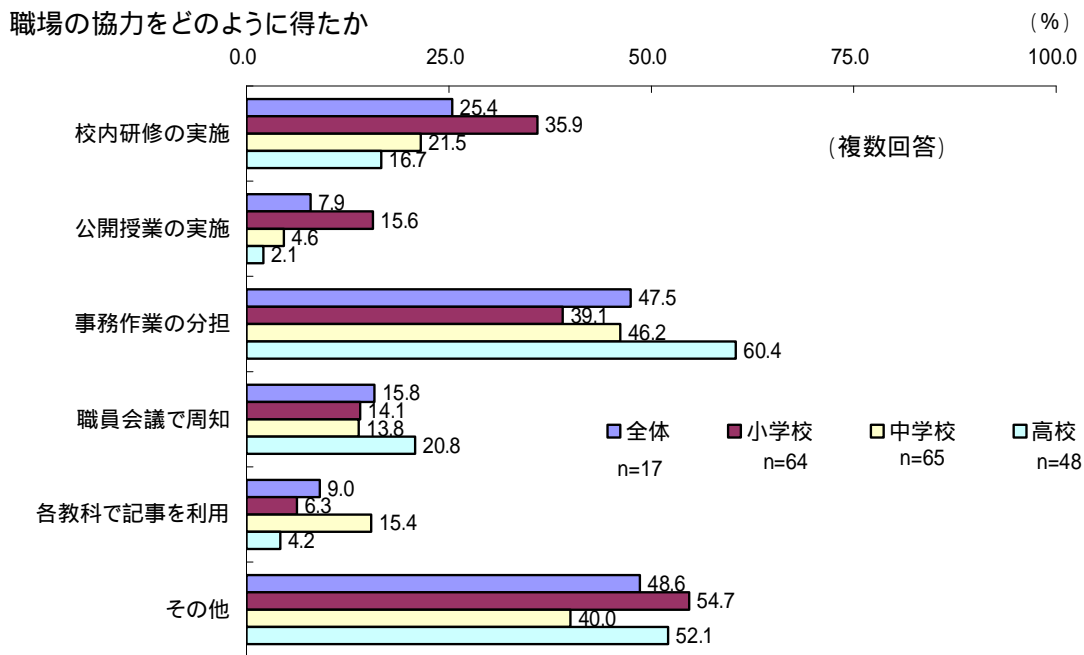
問3 NIE実践校制度をどのように知りましたか。あてはまるものをひとつ選びつけてください

実践校制度を知ったきっかけについては、全体では「校長先生から」(35.8%)、「同僚や知人の教師から」(35.2%)が多かった。その他のきっかけとして、小学校の11.3%が「教育委員会から」、高校の21.2%が「新聞の公募記事」と答えた。その他としては「NIE推進組織からの案内」などがある。



問4 校長、同僚の理解・協力をどのように得ましたか。
 (自由回答を5つにまとめて集計)

校長や同僚の理解をどのように得たかを聞いたところ、全体で新聞代金の支払いなど「事務作業の分担(購読料の支払い、資料づくりなど)」、「校内研修の実施」、「職員会議で周知」の順が多かった。小学校では「公開授業の実施」(15.6%)、中学校では「各教科で記事を利用」(15.4%)、高校では「職員会議で周知」(20.8%)なども多かった。「その他」では「校内にNIE組織を作った」、「全校で取り組む」などがあった。



問5 どの教科・領域で新聞を活用しましたか。あてはまるものすべてに をおつけください。複数の先生で取り組んでいる場合は、その先生の担当も含めて をつけてください。

最も多く活用されたのは「社会、地歴、公民」で79.8%。続いて国語(66.3%)、総合的な学習の時間(64.2%)、道徳(31.1%)、特別活動(29.5%)、理科(25.4%)だった。このほかにも、多くの教科領域で活用されていることがわかる(表)。小学校では、総合的な学習の時間、算数、生活、図工、中学・高校では外国語、技術・家庭での活用が多くなる。

(複数回答)

	n	国語	社会、地歴、 公民	算数、数学	理科	生活	音楽	(%)
全体	193	66.3	79.8	7.8	25.4	6.7	4.1	
小学校	71	78.9	83.1	12.7	31.0	16.9	5.6	
中学校	70	61.4	87.1	7.1	24.3	0.0	5.7	
高校	52	55.8	65.4	1.9	19.2	1.9	0.0	

	n	図工、 美術	外国 語	家庭、技 術・家庭	体育、保 健体育	道徳	特別 活動	総合学 習	その他
全体	193	8.3	8.3	19.7	6.7	31.1	29.5	64.2	16.6
小学校	71	15.5	1.4	9.9	2.8	38.0	31.0	85.9	5.6
中学校	70	4.3	11.4	22.9	10.0	47.1	40.0	55.7	14.3
高校	52	3.8	13.5	28.8	7.7	0.0	13.5	46.2	34.6

問6 新聞を活用する際、どのような工夫をしましたか。新聞に親しませる、新聞で学ぶ、新聞を学ぶ、新聞作り のそれぞれについてお答えください(自由回答)。

新聞に親しませる

自由回答を(1)NIEコーナーなどを設置し、自由に新聞を読ませた(2)朝読の時間で新聞を読ませた(3)校内に新聞記事を掲示した(4)その他 に分類した。

回答で最も多かったのは「NIEコーナーなどを設置し、自由に新聞を読ませた」が78.2%で、校種を問わず新聞に慣れ、親しむことが重要であることがわかる。「校内に新聞記事を掲示」が17.1%、「朝読の時間に新聞を読む」は8.3%だった。小学校では9割近くが「NIEコーナーをつくり自由に読ませる」ことを実施し、新聞に親しませることを積極的に行っている。

その他では、写真のスクラップ、1人1紙を配布、マンガや広告を授業で使う、校内放送でニュースを紹介する などがあつた。

(複数回答)

	n	NIEコーナーを 設置し、自由に新 聞を読ませる	朝読の時間で 新聞を読む	校内に新聞記 事を掲示	その他	(%)
全体	193	78.2	8.3	17.1	23.8	
小学校	71	88.7	14.1	18.3	28.2	
中学校	70	80.0	4.3	20.0	20.0	
高校	52	61.5	5.8	11.5	23.1	

新聞で学ぶ

自由回答を（１）記事について意見交換するなど授業で活用する（２）スクラップや興味のある記事を選ぶ、感想を書かせる（３）その他に分類した

全体では「スクラップや興味のある記事を選ぶ、感想を書かせる」が最も多く66.8%で、中学校では74.3%が実施していた。「記事について意見交換など授業で記事を活用」は31.6%だった。「その他」では、「調べ学習の資料として活用」、「記事についてスピーチ」などがあつた。

（複数回答）

	n	記事について意見交換 するなど授業で記事を利用	スクラップや興味のある 記事を選ばせる、感想 などを書かせる	その他
全体	193	31.6	66.8	33.2 (%)
小学校	71	38.0	66.2	38.0
中学校	70	30.0	74.3	30.0
高校	52	25.0	57.7	30.8

新聞を学ぶ

自由回答を（１）先生が新聞について教える（２）新聞社の人の話を聞く（３）紙面の比較読み（４）テレビ・インターネットなど他メディアとの比較（５）その他に分類した。

「新聞を学ぶ」ことについては、「先生が新聞について教える」が14.5%、「新聞社の人の話を聞く」が14.0%、「紙面の比較読み」が22.3%、「他メディアとの比較」が実践されている。「紙面の読み比べ」はどの校種でも2割以上で実施されており、「他メディアとの比較」になると高校が最も多く17.3%だった。

NIE実践において「新聞を学ぶ」ことは、「新聞に親しむ」、「新聞で学ぶ」、「新聞作り」に比べると、あまり実施されていないことがわかる。しかし、「新聞を学ぶ」実践については、新聞社が最も協力できる部分である。また新学習指導要領にも新聞や他媒体から得た情報を比較するといった指導が記述されたことから、新聞社の協力によって実践が広がる可能性がある。

（複数回答）

	n	先生が新聞 について教える	新聞社の人 の話を聞く	紙面の比較 読み	テレビ・イン ターネットなど 他メディアとの 比較	その他
全体	193	14.5	14.0	22.3	11.4	13.0 (%)
小学校	71	18.3	21.1	21.1	11.3	12.7
中学校	70	14.3	12.9	24.3	7.1	10.0
高校	52	9.6	5.8	21.2	17.3	17.3

新聞づくり

回答を(1)学習のまとめやテーマ新聞づくり(2)新聞コンクールに出品(3)その他に分類した。

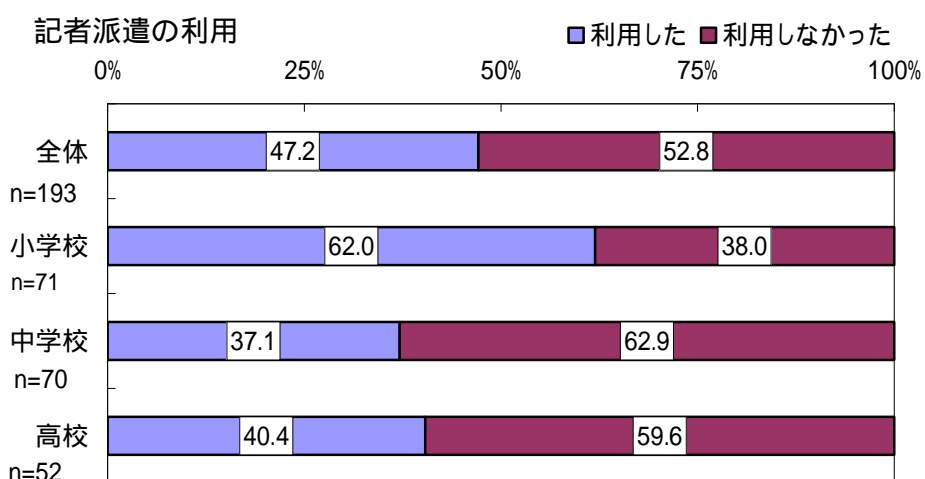
「新聞づくり」を実施しているのは全体で64.2%、特に小学校では87.3%が実施していた。「その他」では、作った新聞を地域の方や保護者に配布、作品を新聞社に講評してもらったなどがあった。

(複数回答)

	n	学習のまとめや テーマ別に新聞づ くりをした	新聞コンクール に提出	その他	(%)
全体	193	64.2	3.1	4.1	
小学校	71	87.3	4.2	7.0	
中学校	70	61.4	1.4	1.4	
高校	52	36.5	3.8	3.8	

問7 NIE推進協議会や新聞社の記者派遣(出前授業)や新聞社見学を利用しましたか。どちらかに をおつけください。

記者派遣や新聞社見学を実施したのは全体の47.2%。小学校が最も多く、62.0%、続いて高校が40.4%、中学校が37.1%だった。



問 8 利用した場合の子どもたちの反応はどうでしたか。あてはまるものすべてにおつけてください。

「新聞や新聞記者に興味を持つようになった」と答えたのは全体の 86.8%で、小学校では9割を超えている。「あまり反応がなかった」は3.3%で、「記者派遣」「新聞社見学」は子どもたちが新聞に興味を持つよいきっかけとなっている。

(複数回答)

	n	新聞や新聞記者に興味を持つようになった	記者に対する質問がたくさん出た	あまり反応がなかった	話の内容が難しかった	その他
全体	91	86.8	36.3	3.3	5.5	11.0
小学校	44	93.2	50.0	2.3	0.0	6.8
中学校	26	80.8	34.6	7.7	7.7	15.4
高校	21	81.0	9.5	0.0	14.3	14.3

(%)

問 9 利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものをひとつ選んで おつけてください。

利用しなかった理由で最も多いのは「年間計画に入れられなかった」で76.5%。また1割が「そういうサービスがあることを知らなかった」と答えている。「必要がない」と答えたのは3.9%で非常に少なく、年間計画との調整が問題となっている。

	n	年間計画に入れられなかった	そういうサービスがあることを知らなかった	必要がない	その他
全体	102	76.5	11.8	3.9	7.8
小学校	27	81.5	7.4	3.7	7.4
中学校	44	75.0	15.9	2.3	6.8
高校	31	74.2	9.7	6.5	9.7

(%)

問 10 あなたが新聞活用において感じる難しさを次の中から順位をつけて三つお選び下さい。

教材研究のための時間が足りない 新聞活用のための時間が足りない
 使いたい記事が見つけれられない カリキュラムとの調整が難しい
 その他

新聞活用の難しさについては、「教材研究のための時間が足りない」「新聞活用のための時間が足りない」「カリキュラムとの調整が難しい」の順で挙げられている。

小学校では時間の足りなさの指摘が多く、中・高になると加えてカリキュラムとの調整の難しさが問題になっている。

	1位	2位	3位
小学校	教材研究のための時間が足りない	新聞活用のための時間が足りない	使いたい記事が見つけれない、新聞活用の時間が足りない
中学校	教材研究のための時間が足りない	新聞活用のための時間が足りない	カリキュラムとの調整が難しい
高校	新聞活用のための時間が足りない	新聞活用のための時間が足りない	カリキュラムとの調整が難しい

各順位のなかで最も多く選ばれたもの

問11 上記の問題を解決するために、工夫してうまくいった点があればお書きください（自由回答）。

「教材研究のための時間が足りない」ことについては、NIEのベテランの先生からアドバイスを受ける、校内研究として取り組む、実践報告書や既成のワークシートを活用する、無理をせず教育課程の中で出来ることを考え、日常的に使う ことなどで補っているようだ。

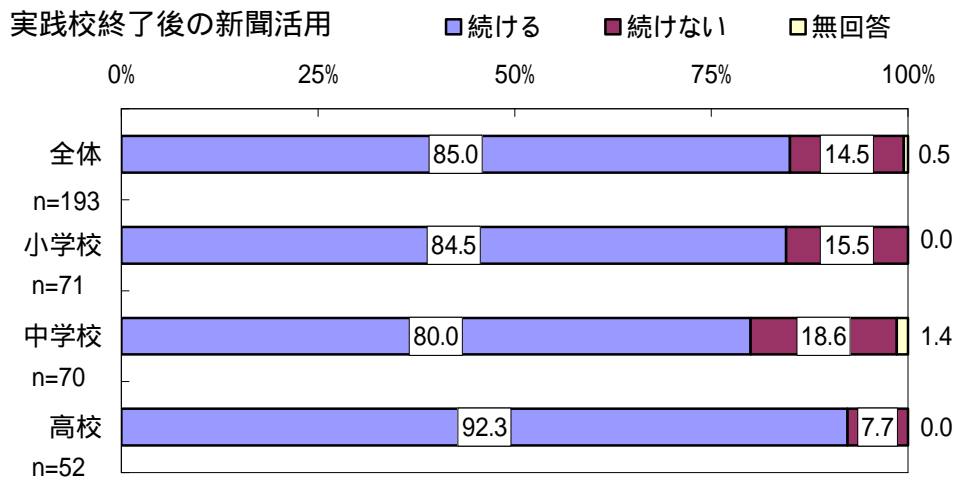
「新聞活用のための時間が足りない」場合は、選択、HR、朝の会など主要教科外で利用、年間カリキュラムの中に位置づける、5分、10分でもNIEの時間として積み重ねる など工夫している。

「使いたい記事が見つけれない」ことについては、日ごろから授業に使える記事を探してストックしておく、子どもに課題をあたえスクラップさせる、司書の協力を得る などの工夫がみられた。

「カリキュラムとの調整」については、総合の時間や教科の発展的な取り組みで利用、朝の会、宿題など授業外の時間を利用、選択教科で実施する ことで新聞活用につなげていた。

問12 実践校が終わり、新聞提供がなくなりますが、今後も新聞活用を続けますか。どちらかに をおつけください。

「続ける」と答えたのは全体の85.0%。小学校が84.5%、中学校が80.0%、高校が最も高く92.3%で、新聞活用への意欲がみられる。



問13 続けない理由について、あてはまるものすべてに をつけてください。
 新聞が確保できない 周囲の理解が得られない 忙しいので手が回らない
 教育的効果があまりない 子どもが喜ばない その他

続けない理由のトップは、校種を問わず「忙しいので手が回らない」で、全体の46.4%が理由にあげた。「新聞が確保できない」からは35.7%であった。「教育的効果があまりない」「子どもが喜ばない」といった否定的な理由は、数%で非常に少なく、教育現場の忙しさがNIEの継続に歯止めをかけている。

その他の理由には、引き継げる教員がない、子どもたちの学力向上のために新聞をどう使いこなしていくか見通しがもてない、総合学習のカリキュラム見直しのためなどがあげられた。

(複数回答)

	n	新聞が確保できない	周囲の理解が得られない	忙しいので手が回らない	教育的効果があまりない	子どもが喜ばない	その他	(%)
全体	28	35.7	3.6	46.4	3.6	7.1	50.0	
小学校	11	27.3	0.0	45.5	9.1	9.1	54.5	
中学校	13	46.2	7.7	46.2	0.0	7.7	46.2	
高校	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

問14 NIEの実践を通して子どもたちにどのような変化がみられましたか。あてはまるものすべてに をつけてください。

NIEを通してみられた子どもの変化を聞いたところ、「新聞に興味・関心を持つようになった」が最も多く(77.2%)、続いて「社会への関心が高まった」(71.5%)、「新聞を進んで読むようになった」(60.1%)の順であった。校種別に

みてもこの傾向は変わらないが、「新聞を進んで読むようになった」は小学校73.2%、中学校60.0%、高校42.3%というように、校種があがるほどポイントは下がる傾向にある。

(複数回答)

	n	新聞を進んで読むようになった	読む、書くことが増えた	自分で調べる態度が身に付いた	記事について友人・家族と話すようになった	新聞についての質問が増えた	授業が活性化した	社会への関心が高まった
全体	193	60.1	33.2	24.4	48.7	16.1	38.9	71.5
小学校	71	73.2	45.1	25.4	57.7	18.3	38.0	73.2
中学校	70	60.0	22.9	22.9	52.9	18.6	38.6	71.4
高校	52	42.3	30.8	25.0	30.8	9.6	40.4	69.2

	n	多面的な考え方が身に付いた	文章の読解力・表現力が向上した	批判力・判断力が育った	新聞に興味・関心を持った	特に変化なし	その他
全体	193	33.2	30.6	21.2	77.2	0.5	3.1
小学校	71	38.0	36.6	23.9	84.5	0.0	0.0
中学校	70	30.0	27.1	15.7	75.7	0.0	5.7
高校	52	30.8	26.9	25.0	69.2	1.9	3.8

(%)

問15 保護者は全体的にNIEをどのように評価していますか。あてはまるものをひとつ選んで をつけてください。

NIEの実践について保護者がどう思っているかをたずねたところ、「高く評価している」は27.5%、「どちらともいえない」が67.9%、「あまり評価していない」は2.6%だった。「どちらともいえない」が最も多いが、「聞いたことがないのでわからない」と付記している回答が多かった。

「高く評価している」と答えたのは小学校が最も多く(43.7%)、中学校(22.9%)、高校(11.5%)と校種があがるほどポイントが下がっている。

	n	高く評価している	どちらともいえない	あまり評価していない	無回答
全体	193	27.5	67.9	2.6	2.1
小学校	71	43.7	54.9	1.4	0.0
中学校	70	22.9	70.0	4.3	2.9
高校	52	11.5	82.7	1.9	3.8

(%)

問16 保護者から寄せられたNIEについての感想があればお書きください。
(自由記述)

「家で新聞を読むようになった」「家族の会話が広がった」「社会への関心が高まった」「自分の意見を持つようになった」「新聞作りを通じて、書く力が伸びた」などは複数の回答があった。

問 1 7 新聞購読に関して何か問題はありませんか。あてはまるものすべてに をおつけください。

購読に関しては76.7%が問題ないと回答している。問題があったのは「注文した新聞が届かない」が7.3%、「購読計画が終了しても新聞が配達された」が9.3%だった。

(複数回答)

	n	注文した新聞が届かない	購読計画が終了しても新聞が配達された	その他	問題はない	無回答
全体	193	7.3	9.3	6.2	76.7	4.1
小学校	71	5.6	8.5	8.5	73.2	4.2
中学校	70	4.3	4.3	2.9	82.9	7.1
高校	52	13.5	17.3	7.7	73.1	0.0

(%)

問 1 8 新聞社や新聞財団への要望があればお書きください。(自由回答)

複数の要望があったのは多い順に「新聞提供期間を延ばして欲しい」「低年齢層向けの記事を増やしてほしい」「小学生新聞を対象としてほしい」「報告書など作業が多い」「英字紙を認めて欲しい」「全国のNIE実践に関する情報を手軽に手に入れたい」「短期間でも補助教材として、新聞を無料提供してもらえないか」などがあげられた。

問 1 9 新聞販売店への要望がありましたらお書きください。(自由回答)

「チラシを入れないでほしい」「販売店にNIEのことを周知させてほしい」「集金の手間を省いて欲しい」について複数の要望があったが、休日や長期休業時に取り置くなど柔軟な対応に感謝のことばも多くあげられていた。

以 上